

Title	観測案内(6月)
Author(s)	木邊
Citation	天界 = The heavens (1937), 17(194): 320-321
Issue Date	1937-05-25
URL	http://hdl.handle.net/2433/167471
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

観 測 案 内 (6月)

木 邊 生

6月 “松風に床居をしつゝけふは早や、風待月の夏のうとさよ”(顯昭作) 水無月はよく呼ばれる名だが、風待月と云ふのは滅多と聞かない。無論舊曆の事だから、今の7月に親しい。むしろ5月の歌に“五月雨の晴れ間も見えぬ空よりは、月見ぬ月と云ひはじめけむ”(同上人作)はれが今の6月らしい。いやな梅雨である。それに付けても、北海道であつたとは云へ、去年の快よく晴れた日食が思ひ浮ぶ。北海道、名寄、皆既帯、中頓別、枝幸、殖民軌道、山火事、白樺、ジャガイモ、不連続線、……………次ぎ次ぎの聯想に際限はなく、果ては人民戦線までも飛び出す。折も折、再びこの6月9日には、遙か萬里の彼方、山本臺長の一行はペル1での日食観測だ。快報來る日を信じて疑はない。此の1個の Phenomena に自然科学は鋭い解剖のメスを奮ふ。が、角度をかへて、1箇の“現象”を取扱へば、聯想は、認識、實在、觀念と展開する。=1チェも良し、ハイデツガ1の解釋の現象學も人氣がある。東洋の唯識論も亦一役は持つだろう。外には朝から未だ雨がシトシト降りつゞけて居る。

天候、シ1イング 理想的に行けば“月見ぬ月”になるが、そんなに降つては天文家たらずも弱る。梅雨の成生原因の紹介はあまりに Popular だ。晴れは尠ないのが通例だが、概してシ1イングも良く、火星を迎へて、遊星面觀察には條件が良い。

太陽 晴れさへすれば seeing も良く、観測の成績は擧る。再び活況を呈してもよいと思つて居る。

火星 獨り遊星界の人氣を占めて居る。次第に夕刻早く昇るから、初心の方の観測には都合良い。視直径は 18."36-15."97 迄減少するが、カナルを認める事は 10cm 級の器械でも容易だろう。伊達、前田、渡邊氏の火星スケツチには、4 月中に全然前回には認め得られなかつた多くの detail が出て居る。中にも渡邊氏は、花山に在つて、リ1ド、オフ、マンの役目を良く果し

て居る。3人に負けないスケッチを他の方に期待する。特に多分此の月中に北極冠の結成と云ふ珍現象を見られるかも知れない。但し観測は相當な口径と、天候と、熟練が必要である。

木星 そろそろ見易くなつて来る。4月には昨年よりは少し浅黒いが依然赤斑は健在である。

恒星界 センタウルスの ω , ヘルクレスの M13, 球状星團の両者は 15cm で星になりかけ, 20cm では大分美しくなる。25cm になると, 本當に數知れない小さい銀砂である。センタウルスの方が一層美しいが, 南天に 10° そこより昇らないから, 餘程空氣の清澄な時でないと思はれないのが残念である。射手や白鳥を流れる銀河は, 寫眞に出て居る程鮮かには眼視的には見難い。其れは光度差に對する肉眼の感じが, 寫眞とは別なものであり, 小さい星は遠い様に感じるから, 寫眞の様に, 一樣な面にある如く感じないのである。又, 眼視的には, 遙かに擴散されて見えるからでもある。強いて見たければ, 射手座の邊を, 出来るだけ低倍率。即ち 10cm ならば 20~30 倍位で見なければならぬ。

廣角の手提カメラで撮影を試みるのも面白いが, f4.5 位のレンズでも容易に撮影出来ない。一寸でも霞や霽がかゝると, 全く駄目になる。

其他の天體 グリツグ, スケエルラツプ彗星, 5月2日, 静岡の清水氏發見。6月19日頃に最も近づく, 但し大して大きくはない。

小遊星 (20)	Massalia	^m 9.9	6月14日對衝
(9)	Metis	9.5	6月27日對衝

昨年	の記録	平均雲量	6 ^h (6.9)	21 ^h (6.3)
		平均氣溫	6 ^h +18.8°C	21 ^h +21.2°C
		太陽黑點相對數1日平均	63.5	
		觀測日數	13日	

昨年6月の出來事 19日皆既日食。

18日 Nova Lac 發見 (會員五味氏)